

第2回医療安全成功事例大会開催

“成功事例”から学ぶ医療安全対策

航空業界における CRM をヒントに

2005年10月29日(土)、神奈川県総合医療会館にて第2回医療安全成功事例大会(神奈川県看護協会主催)が開催された。本事例報告会は医療安全を事故という失敗事例ではなく、成功事例から学んでいこうとする趣旨である。

浅川明子神奈川県看護協会会長より行なわれた開会挨拶では、看護師の増員、また医療安全の知識を、基礎教育と現場で身につけるにはどうするかに言及し、本大会をはじめとした取り組みで、全国における医療安全対策を牽引していきたいという意気込みが熱く語られた。

基調講演として、「CRM(Crew Resource Management)訓練とは」と題し、元ANA国際線主席機長である石橋明日本ヒューマンファクター研究所研究開発室長によりCRM訓練の説明が行なわれた。CRM訓練とは、航空業界において始まり、ヒューマンエラーによる航空機事故を防止するために利用可能なすべての情報を有効に活用することをめざす訓練のことである。

続いて安井はるみ同協会医療安全対策課長を座長とし、「医療におけるCRMの活用」としてパネルディスカッションが行なわれた。伊川順子岐阜北厚生病院看護部長は、過去に発生した異型輸血事故を契機として行なった医療事故シミュレーションの内容を紹介。また、石川雅彦国立保健医療科学院政策科学部安全科学室室長は「医療安全にお



けるCRMの応用領域」として国立保健医療科学院におけるCRMの取り組みを紹介し、トレーニングツールとしてのCRMの活用の可能性を示唆した。

会場からの「CRM訓練をいかに取り入れていくか」という質問に対し、3氏は事例に対して「問いかけること」「トレーニングの材料とすること」や、「毎日少しずつでもくり返し実践すること」といった、恒常的取り組みの必要性を説いた。

その後、各施設の安全成功事例が、ポスターセッションおよび口演で発表され、活発なディスカッションが行なわれた。

●本誌編集室